

6

性的マイノリティの人権

自分らしさってなんだろう

1 対象

小学校4～6年生

2 ねらい

性のありようを表すものとされる傾向にあった事柄が、「性」によるものではないことを学び、性のありようは多様なものであることに気づき、人としてお互いの個性を尊重し、認め合いながら共生していこうとする意識を育む。

3 準備するもの

○ワークシート

○セクシュアリティの構成要素の図を拡大したもの（黒板掲示用）

4 解説

近年、性的マイノリティ（LGBT）の人たちへの社会的関心が高まっているにも関わらず、その理解は十分に進んでいるとは言えない。いくつかの企業や研究機関のデータから考えてみても、性的マイノリティの人は児童・生徒の中にも一定数存在するということがわかる。

平成 28 年に文部科学省より通知された「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」では、学級・ホームルームにおいては、いかなる理由でもいじめや差別を許さない適切な生徒指導・人権教育等を推進することが、悩みや不安を抱える児童・生徒に対する支援の土台となることと示されている。

性のありようは、一人ひとり異なっており、それぞれ尊重されるべきものである。これまで性のありようは「男らしさ」と「女らしさ」と二分し、そうあるべきとされてきた傾向もあった。児童が活動をとおして、性のありようを表すものとされる傾向にあった事柄が、「性」によるものではないことを学ぶことで、性のあり方は多様なものであることに気づき、お互いの個性を尊重し、認め合いながら共生していこうとする意識を育みたい。

5 進め方（展開例） 45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「他己紹介」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①2人ずつペアとなり、お互いに自己紹介をする。 ②2つのペアで4人グループを作り、自分のペアの人について順番に紹介する。 ③全員の他己紹介が終わったら、全体で取り組んだ感想を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を児童に伝える。 4人程度のグループで行う。 自己紹介の内容をあらかじめ決めておく。（名前、趣味、性格など） まとめをする。 	
<p>・相手のことを理解しようとする気持ちをもつとともに、自分のことを紹介してもらうことによって、他者に自分を受け入れてもらえているということを体感する。</p>			

展開 30分	<p>◆アクティビティ（30分）</p> <p>「自分らしさってなんだろう」</p> <p>①Aさんの自己紹介文を見ながら、先生の話の聞く。</p> <p>②バカにされたAさんの気持ちを各自で想像し、記述する。</p> <p>③②を数人が発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えながら聴けるように、Aさんの自己紹介を一つずつゆっくり読む。 ・数人に発表させる。 ・下枠内の事柄を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを否定されると、嫌な気持ちになることを想像する。 ・その人らしさを否定することは、その人を傷つけることを知る。 ・その人らしさは「尊重されるべきもの」だということを知る。 			
	<p>④Aさんが男性か女性か質問する。</p> <p>⑤グループで課題について話し合い、どう思ったか結果とその理由を記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、そう思ったのか理由も説明させる。 ・グループで話し合った結果とその理由をワークシートに記述させる。 ・これらの言葉の内容も「その人らしさ」として試みるができる、性別とは関係ない事柄であることなどに気づかせたい。 ・下枠内の事柄を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「男だから・・・」、「女だから・・・」というきまりはなく、どれも「その人らしさ」の一つだということに気づく。 	
<p>⑥「性」についての説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確に「男性」と「女性」の2つに分けることができない。 ・その人自身の性のありようのことを「セクシュアリティ」という。 ・「セクシュアリティ」には、「こころの性」、「からだの性」、「好きになる性」、「表現する性」の4つがある。 ・「セクシュアリティ」は多様で、グラデーションのようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート設問4を読み、性のありようは複数の要素があり、それらが複雑に絡み合うため、多様性が増すことを説明する。 ・差別的な意味合いを含む言葉などが児童から出てきた場合は、「それってどういうこと？」と聞き返し、こうした「セクシュアリティ」や「その人らしさ」は尊重されるべきものであることを再度確認する。 ・教師など身近な大人の例を示すことで、本人の感じ方と周りの感じ方の違いについても、児童に感覚的にとらえさせることもできる。 			
まとめ 5分	<p>◆まとめ（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの話を聞き、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性のありようは、一人ひとり違い、「男だから」、「女だから」というきまりはなく、「その人らしさ」の一つであることを知る。 ・お互いに「その人らしさ」を認めていくことが重要であることに気づく。 	

<参考資料など>

「人権感覚育成プログラム（学校教育編）第2集」 埼玉県教育委員会（平成31年3月）

「人権教育実践資料2 性の多様性を認め合う児童生徒の育成I」 倉敷市教育委員会（平成29年3月）

自分らしさってなんだろう

() 年 () 組 () 番 名前 _____

1 Aさんはクラスで自己紹介をしたとき、次のようなことを話しました。

- ① 算数は苦手だけど、音楽が好きです。小さい頃からピアノを習っています。
- ② 生まれつき髪の色が少し明るくて茶色に見えることもあります。
- ③ ハンバーグは好きだけど、野菜は苦手です。特に、ピーマンが嫌いです。
- ④ 好きなスポーツはサッカーです。
- ⑤ パンが好きなので、将来はおいしいパンを作る人になりたいです。

2 もしも、1であげた①～⑤の事柄をバカにされたら、Aさんはどんな気持ちになると思いますか。

3 次の枠の言葉は、「男だから」「女だから」と、性別のちがいによって決めつけられてしまう言葉でしょうか。グループで話し合ってみましょう。

やさしい 部屋がきたない 言葉づかいが丁寧 気が強い すぐに泣く
 外見に気をつかう 料理が苦手 おとなしい 機械に強い 決断力がある
 赤色が好き 青色が好き 音楽が苦手 行儀がよい スポーツが得意

グループで話し合った結果

理由

4 性のとらえ方

「あなたの性はなんですか？」と聞かれると、「男性」か「女性」のどちらかに分けて考えてしまいがちですが、実は、明確に「男性」と「女性」の2つに分けることはできません。

その人自身の性のありようのことを「セクシュアリティ」といいます。

セクシュアリティとは、人間一人ひとりの人格に不可欠な要素の集まりです。

その要素には、

「こころの性：自分自身の性別をどう認識しているか」

「からだの性：生まれもった身体の性のこと」

「好きになる性：恋愛や性愛の対象となる人の性」

「表現する性：服装や性格、趣味や振る舞い方など」の4つがあります。

これらの性は「男性」と「女性」の2つに分けて考えがちですが、その2つだけに分けることができないものです。セクシュアリティは多様で、グラデーション（※）のようなもので、一人ひとり異なるものです。

セクシュアリティの構成要素



※グラデーション：上の図のように、色の濃さうすさが、とぎれなく変わっていくもので、はっきりとした区切りがない状態を表す。

5 今日の学習をとおして、わかったことを書きましょう。

7

性的マイノリティの人権

多様な性のとらえ方

1 対象
中学生

2 ねらい

事例をもとにした話し合い活動をとおして、性のありようは多様であることを知るとともに、そうしたお互いの違いを認め合いながら、他者と共生していこうとする姿勢を育む。

3 準備するもの

○ワークシート

○レインボーフラッグ（カラー版）…拡大写真やプロジェクターで画像を映せるように準備しておく。

4 解説

学校教育における「性の多様性」についての考え方として、平成28年に文部科学省より通知された「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」によれば、「他者の痛みや感情を共感的に受容できる想像力等を育む人権教育等の一環として、性自認や性的指向について取り上げることも考えられるが、その場合、特に義務教育段階における児童・生徒の発達の段階を踏まえた影響等についての慎重な配慮を含め、上記の性に関する教育の基本的な考え方や教育の中立性の確保に十分な注意を払い、指導の目的や内容、取扱いの方法等を適切なものとしていくことが必要である」と示されている。

本実践においても、「性の多様性」の理解について、事例を単発的に実践するのではなく、生徒の発達段階をふまえた上で取り組むことで、深い理解につなげたい。

5 進め方（展開例） 50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「共通点」</p> <ol style="list-style-type: none"> 2人組を作り、自己紹介をする。 お互いに共通する事柄を3つ探す。 例) 血液型、ペットを飼っている、趣味など 4人組になって共通点を探す。 グループで活動の感想を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を生徒に伝える。 4人程度のグループで行う。 時間を制限して、お互いのコミュニケーションを促す。 まとめをする。 <p>・お互いの共通点を見つけることで、相手への親近感を持つ。 ・お互いに共通点だけではなく、違いも多いということに気づく。</p>	
展開 30分	<p>◆アクティビティ（30分）</p> <p>「多様な性のとらえ方」</p> <ol style="list-style-type: none"> レインボーフラッグのカラー写真を見ながら説明を聞き、複数の色があることにはどのような意味があるのか各自で考え、ワークシートに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 レインボーフラッグはLGBTの尊厳や社会運動の象徴であることを説明する。複数の色があることに気づかせ、色の意味について考えさせる。 数名に記入した内容を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート レインボーフラッグ（カラー版）

展開 30 分	<p>②レインボーフラッグの色の意味を聞き、性の多様性に気づく。</p> <p>③セクシュアリティの4要素をもとに性の多様性について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「性」は多様なものであり、一つひとつははっきり分けられるものではないことを、虹のグラデーションを模して表していることなどを伝える。 	
	<p>④セクシュアリティは様々に考えられていることの説明を聞く。</p> <p>⑤遠藤まめたさんの著書（抜粋）を読む。</p> <p>⑥遠藤さんの感じていた苦しさについて各自で考えワークシートに記述する。</p> <p>⑦学校や社会の中で、心と身体の性別に違和感をもたないことが前提となっていることには、どのようなものがあるか各自で考えワークシートに記述する。</p> <p>⑧⑦をもとに、グループで話し合う。</p> <p>⑨グループで話し合った内容について全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> その人自身の「性のありよう」を「セクシュアリティ」といい、人間一人ひとりの人格を形成する上で不可欠な要素であることを知る。 「心の性 : 自分自身で認識している性のこと」 「身体の性 : 生まれもった身体の性のこと」 「好きになる性 : 恋愛や性愛の対象となる性のこと」 「表現する性 : 服装や性格、趣味や振る舞い方などで表される性のこと」 <p>セクシュアリティの4つの要素について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4つの要素は、「男性」と「女性」の2つに分けて考えられがちであるが、現実には明確に「男性」と「女性」の2つに分けることはできないものであることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> 性自認と性的指向について説明する。 文中の「気に入らない」、「耐えがたい」「苦痛」といった言葉に着目させる。（例：何に対してかなど） どんな発言についても否定せずに認め合うことを指導する。 	
まとめ 10 分	<p>◆まとめ（10分）</p> <p>①様々なセクシュアリティの人も安心して生活するために、私たちにできることを考えて記述し、グループで共有する。</p> <p>②まとめの話を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相談をする時間を設け、全員が考えることを促す。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 性のありようは実際には一人ひとり違っており、多様であること、そして、その多様性を認めた上で、お互いに尊重することが大切である。 すべての人が安心して生活できる環境や社会をつくる意識を、一人ひとりが持つことが重要である。 	

<参考資料など>

「平成28年度新たな人権課題に対応した指導資料」 埼玉県教育局市町村支援部人権教育課（平成29年3月）

多様な性のとらえ方

()年()組()番 名前_____

- 1 右の画像は、LGBT の象徴であるレインボーフラッグと呼ばれているものです。どのような意味をもって虹を模して作られたかについて考え、次の枠内に書きましょう。



- 2 セクシュアリティを便宜上、4つの要素に分けて考えてみましょう。

- ①< の性>…自分自身の性別をどう認識しているか
- ②< の性>…生まれもった身体の性のこと
- ③< 性>…恋愛や性愛の対象となる人の性
- ④< 性>…服装や性格、趣味や振る舞い方など

①～④の4つの性は、「男性」と「女性」の2つに分けて考えられがちであるが、現実には明確に「男性」と「女性」の2つに分けることはできないものである。

- 3 様々な考えられているセクシュアリティ

●性自認について

トランスジェンダー	<こころの性>に対し<性>に違和感をもち、出生時と異なる性別で生きようとする人たちの総称。 ※「性同一性障害」や「性別違和」は診断名。
シスジェンダー	<こころの性>に対し<性>に違和感をもち、出生時の性別のまま生きようとする人たちの総称。

●性的指向について

ホモセクシュアル	<こころの性>に対し好きになる性>が同性であること。
ヘテロセクシュアル	<こころの性>に対し好きになる性>が異性であること。
バイセクシュアル	<好きになる性>が同性の場合も、異性の場合もあること。
アセクシュアル	他者に対して恋愛感情や性的欲求を抱かないこと。

4 次の文章は、トランスジェンダー当事者としての体験をきっかけに、LGBTの方の支援に関わっている遠藤まめたさんの著書から抜粋したものです。

「ひょっとしたら、自分は将来アシをはくハメになるのではないか……」。小学校低学年の頃から、うすうすと中学校の「制服」の存在に気づいていた私は、天敵であるスカートをなんとか回避するために、私服の中学を目指していた。しかし、結局受かったのは、中高一貫の女子高。しかも「セーラー服」という大きなオマケがついていた。

<中略>

泣いても笑っても、思春期の身体は変化していく。変化していく体のラインが、どうにも気に入らない。中学三年生になった頃、学校の廊下を歩いているときに、ふと「このままいったら、自分には『女の人生』しか残っていないんじゃないか」と気がついた瞬間があった。すると、目の前がぼかんと真っ暗になった。

<中略>

スカート姿の自分を見ると、目にレーザー光線が当てられたみたいに痛かった。大学受験の模試の性別欄「男・女」にマルをするのも、耐えがたかった。

<中略>

人生で最大の悲劇とは、それが悲劇とさえ周囲に見なされないようなものだ。もしも私が街で殴られていたら、きっと誰かが「なんてひどいことを」と言い、助けてくれたことだろう。ところが、私が毎日セーラー服を着ていることは、まわりの人々にとってはたんなる「日常風景」だった。自分にとっては、殴られるのと変わらないのに。まわりにとっては当たり前すぎることで苦痛を感じているのだから、これほど苦しいことはない。

遠藤まめた 著『オレは絶対にワタシじゃない-トランスジェンダー逆襲の記』（はるか書房）より

① 遠藤さんの感じていた苦しさは、どのようなものだったのでしょうか。

② 学校や社会の中で、心と身体の性別に違和感をもたないことが前提となっていることには、どのようなものがあるのでしょうか。

③ 様々なセクシュアリティの人が、ともに安心して生活するために、私たちにできることはどのようなことでしょうか。

近年、性的マイノリティの人たちへの社会的関心が高まっているにもかかわらず、その理解は、未だ十分に進んでいるとは言えません。性的マイノリティの割合は、8.9%（2018年電通調査）とされており、児童・生徒の中にも存在するという認識が求められています。

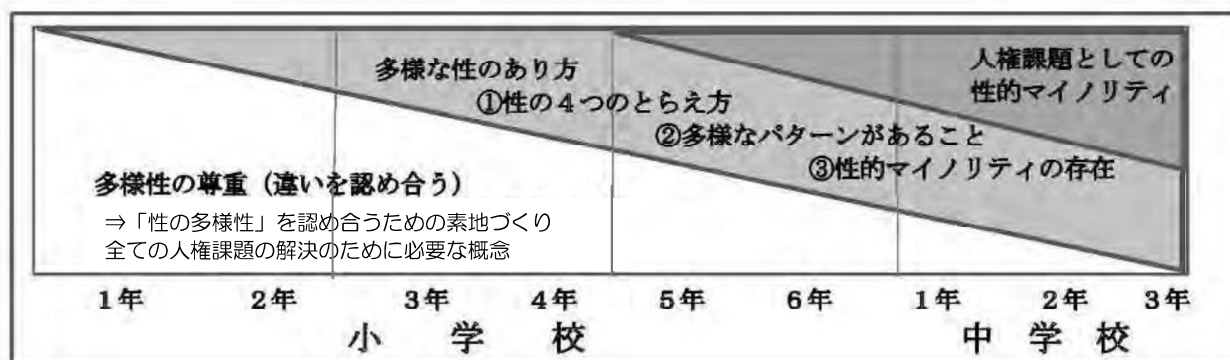
性的マイノリティの人権が保障されるために学校がすべきことは、性的マイノリティとされる児童・生徒への支援は当然ですが、すべての児童・生徒が、他者の痛みや感情を共感的に受容できるように指導し、性自認や性的指向の多様性について正しく理解できるようにすることも大切なことと考えられます。

「性の多様性」に関する学習の前提として

児童・生徒が「性の多様性」に関する学習を行う前提として、互いの違いを認め合い、自分らしさを大切にするという素地づくりが必要です。違いを認め合う、個人を大切にするといった「多様性の尊重」は、性的マイノリティの人権と共に、すべての人権課題のベースになるものであり、重要です。

「性の多様性」に関する教職員研修等を実施し、学校環境づくりや相談・サポート体制の整備、保護者との連携などを進めていく中で、児童・生徒に正しく理解させたいことが整理されてきます。「まずは授業ありき」とならないように留意する必要があります。

発達段階に応じた学習内容



STEP1

どの人権課題にも言えることですが、まずは違いを認め合う、個人を大切にするといった「多様性の尊重」は小学校低学年から中学校までのどの学年でもベースとして必要です。この概念は他の人権課題の解決にもつながるので、女性の人権（男女共同参画）「何にでもなれるよ!」「ちがいのちがいがい」などの学習内容が考えられます。

STEP2

STEP1の上に、「多様な性のあり方」の学習が位置付けられます。「多様な性のあり方」の学習は①性の4つのとらえ方（からだの性・こころの性・好きになる性・表現する性）②多様なパターンがあること（グラデーションのようになっていて、誰もがどこかに当てはまる）③性的マイノリティの存在などについて正しく理解させることが求められます。「科学的知見に基づいた、正しい理解」がポイントになります。

STEP3

「多様な性のあり方」の一つの要素として、人権課題としての性的マイノリティの学習があります。これは小学校高学年以上から始まり、義務教育を終了する中学3年生にかけて内容を深めていくことが望まれます。「性の多様性」の学習として、いきなり「人権課題としての性的マイノリティ」を取り上げると、児童・生徒にとって唐突感のある授業になり、困惑や当事者探しを引き起こす恐れもあります。当事者の生きづらさを理解することは、性の多様性を学ぶ上で重要な要素ですが、それがすべてではありません。STEP1、STEP2の学習を充実させることがポイントになります。

<参考資料など>

「人権教育実践資料2 性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅰ」 倉敷市教育委員会（平成29年3月）

8

災害発生時の人権

誰もが過ごしやすい避難所をめざして

1 対象

小学校 4～6年生、中学生

2 ねらい

「災害弱者」と言われる高齢者や障がい者、病人やけが人、女性、子ども、外国につながる人などの特別な配慮や支援が必要な人がいることに気づき、災害時にもお互いの人権を尊重しようとする態度を育てる。

3 準備するもの

- イラスト（黒板掲示用）
- イラスト（各グループへの配付用）
- ワークシート①②

4 解説

災害発生時は、被災したすべての人に生活の困難が生じ、基本的人権が保障されない状況が生じる。避難所生活では、通常の生活の中では感じたことのない不安感やストレスを感じてしまう。高齢者や障がい者、病人やけが人、女性、子ども、外国につながる人などの「災害弱者」の困難は大きく、人権侵害が起きる可能性がある。災害に備えて、一人ひとりの事情を考慮しながら、どのような人権意識を持って対応すればよいかを日頃から考えておくことが大切である。この備えが、いざという時の行動につながる。ワークをとおして、災害時に特別な支援や配慮が必要な人たちの存在を認識し、人権尊重の視点に立った支援について考え、行動しようとする態度を育てていく。

5 進め方（展開例） 45分（中学校 50分）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレーキング（8分）</p> <p>「困ったことグランドスラム」</p> <p>①グループのメンバーで、順番に「町の施設や交通機関などで困ったこと（経験）」を出し合う。</p> <p>②①について、同じように感じたことがある人がいたら、その人数の所に書き出していく。</p> <p>③すべての人数欄が埋められたらグランドスラム達成。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を生徒に伝える。 ・1グループ4名程度 ・グループに1枚、ワークシート1を配付する。 ・困ったことの内容を、発言した人と同じように感じた人の数を合計した人数の所に書き出す。 ・達成していなくても時間になったら終了とし、まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1
<ul style="list-style-type: none"> ・場所や状況によって、誰にでも困ってしまうことがあることに気づく。 ・同じ状況になったら、自分も同じように困ってしまうかもしれないことに気づく。 			

<p>展開</p> <p>30分 (中学校 35分)</p>	<p>◆アクティビティ 30分 (中学校 35分) 「誰もが過ごしやすい避難所をめざして」</p> <p>①イラストを見て、困っている人を探し、なぜ困っているのか考える。</p> <p>②ワーク 1 をもとに困難を解消する方法を 3 ～ 4 人のグループで話し合う。</p> <p>③誰もが過ごしやすい避難所にするための方法を話し合う。</p> <p>④グループで話し合った内容をクラス内で発表する。</p> <p>⑤グループで活動の感想を発表し合う。</p>	<p>•ワークシート2とイラストを配付する。</p> <p>•特別な支援や配慮を必要とする人たちの存在に気づかせ、具体的な困難さについて考えさせる。</p> <p>•困難を解消するための具体策を考えさせる。</p> <p>•すべての人の立場に立って、困難を探し、誰もが過ごしやすくなる具体策を考えさせる。</p> <p>•全グループの発表後に、グループでは気がつかなかった感想について発表させてもよい。</p>	<p>•ワークシート2 •イラスト</p>
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <p>•まとめの話を聞く。</p>	<p>•授業をとおして児童・生徒から出された感想や記述をもとに、ねらいを押さえ、まとめる。</p>	<p>•高齢者や障がい者、病人やけが人、女性、子ども、外国につながる人などの特別な配慮や支援が必要な人がいることを想像し、災害時に限らず、支援の際には、相手の立場に立ち、必要な手立てを考えることが大切である。</p>

<参考資料など>

「人権教育学習資料集 『なかまとともに・高等学校』」奈良県教育委員会 (平成 28 年 1 月)

こま
「困ったことグラントスラム」

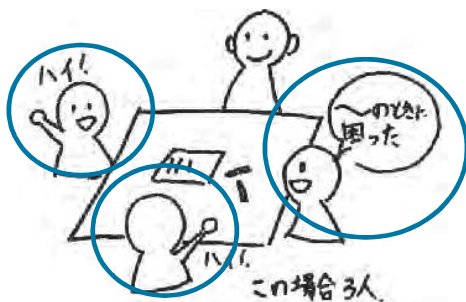
①グループのメンバーで、順番に「交通機関や町の施設などで困ったこと（経験）」を出し合ってください。

②出し合った困ったことの内容を、発言した人と同じように感じた人の数を合計した人数の所に書き出してください。

③1人～4人、すべての人数欄が埋められたらグラントスラム達成です。

（1グループが4人以上の場合でも、1人～4人、すべて埋まればグラントスラムです。）

人数	交通機関や町の施設などで困ったこと（経験）
1人	
2人	
3人	
4人	



困ったことの内容を、発言した人と同じように感じた人の数を合計した人数の所に書き出していきます。

だれ す ひなんじょ
誰もが過ごしやすい避難所をめざして

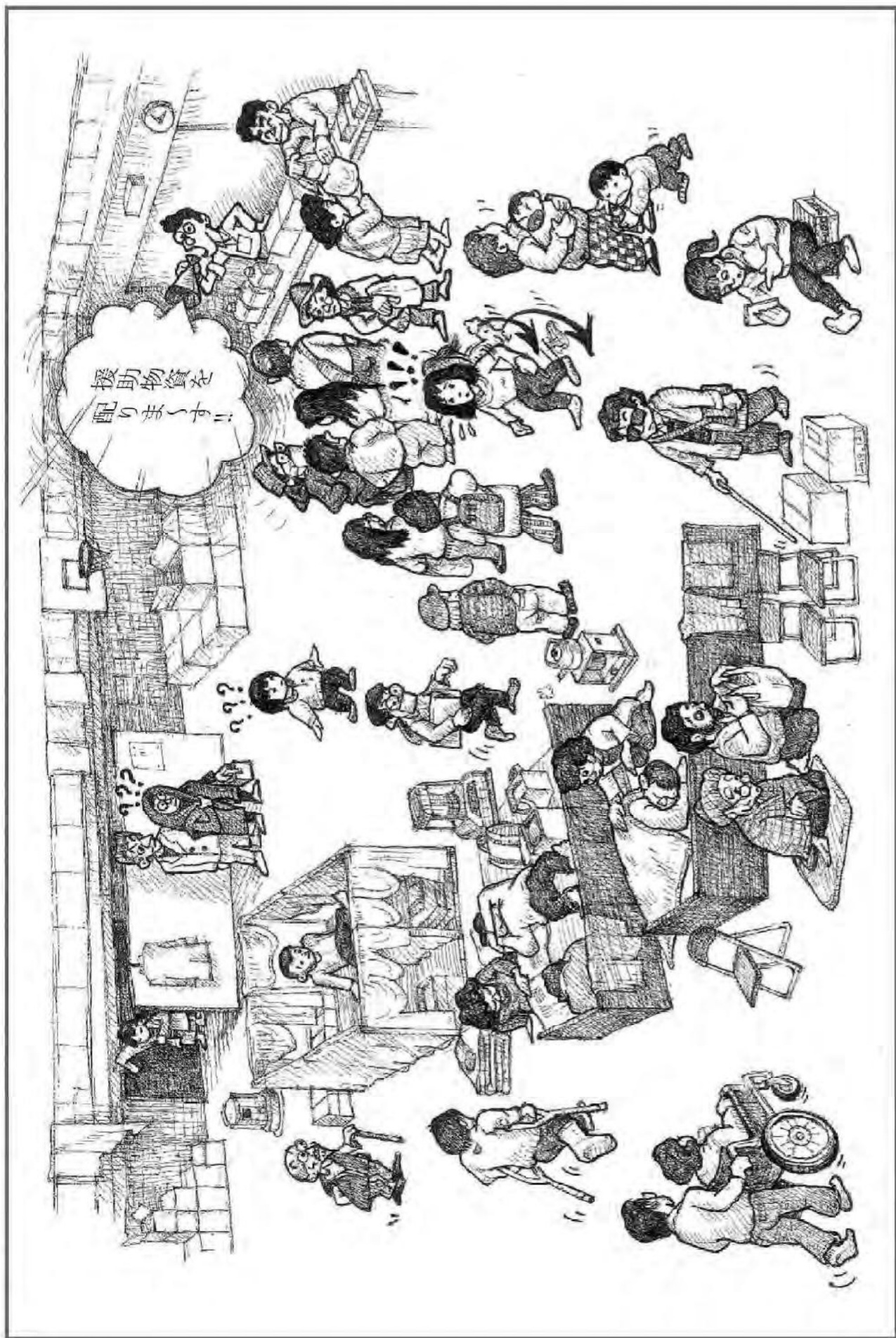
()年 ()組 ()番 名前 _____

どんな人が	こま 困っていること

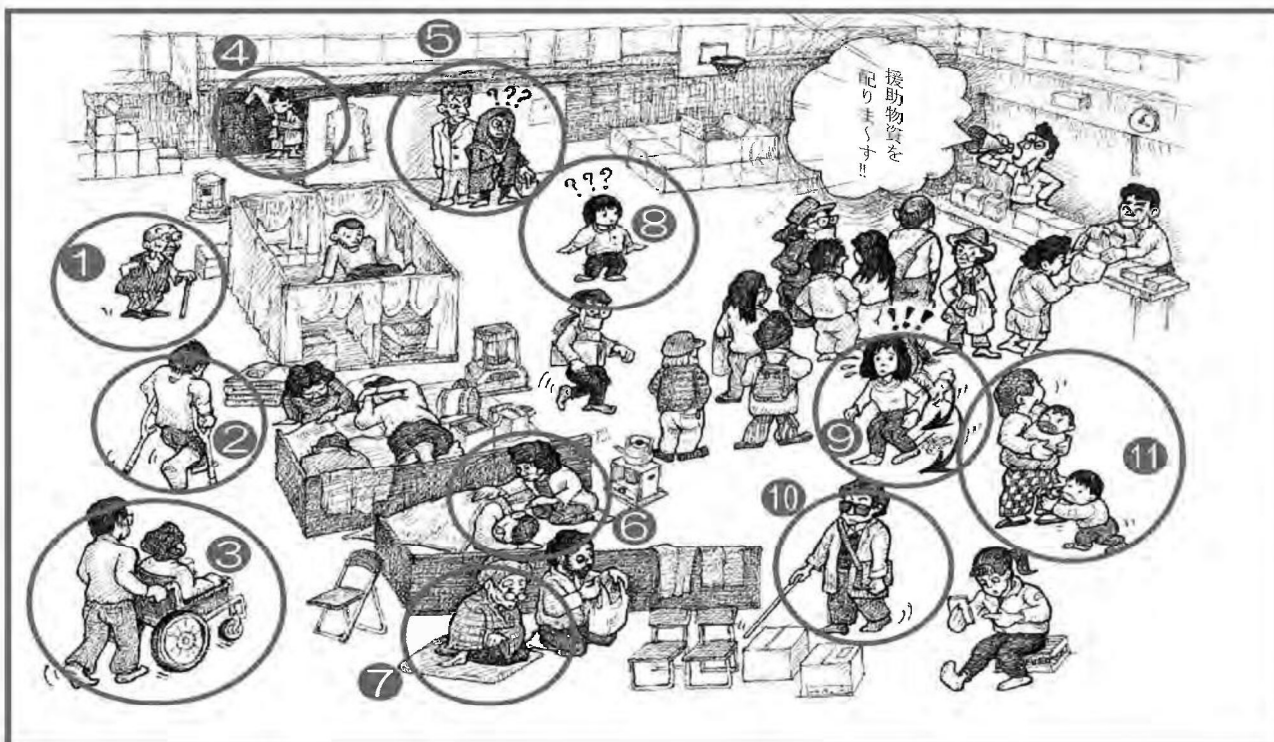
かいけつ ほうほう
解決する方法

だれ す ひなんじょ
誰もが過ごしやすい避難所にするためには

イラスト「誰もが過ごしやすい避難所をめざして」



「誰もが過ごしやすい避難所をめざして」予想される回答例



(ここで示すのは例であり、同じ場面でも複数の捉え方ができます。)

【困っていることの例】

- ① 高齢者・・・階段や段差、障害物による移動の困難
- ② ケガをした人・・・階段や段差、障害物による移動の困難
- ③ 車いすに乗った人・・・階段や段差、障害物による移動の困難
- ④ 女性・・・着替える場所、常に男性が周りにいる状況
- ⑤ 外国につながる人・・・日本語での情報収集の困難、生活習慣や食事、宗教
- ⑥ 慢性疾患のある人・・・病気のことが理解されない
- ⑦ 介護を必要とする人・・・食事、排せつ、着替えなど日常生活全般に介助が必要
- ⑧ 子ども・・・周囲の状況判断や理解の困難、保護者が面倒を見ることが必要
知的障がいのある人・・・周囲の状況判断や理解の困難
- ⑨ 女性・・・物資を配布しているのは、男性ばかりなので、人によっては受け取りづらい場合がある
- ⑩ 視覚障がいのある人・・・周囲の状況判断や伝達が困難
階段や段差、障害物による移動の困難
- ⑪ 小さい子どものいる家庭・・・子どもの面倒を見なくてはならない

【解決する方法の例】

- ①②③⑩・・・施設のレイアウトを工夫して、通路を確保する
- ④・・・女性専用のスペースの確保
- ⑤・・・同じ国の人が集まれる場所の確保、多言語や母国語による情報提供
- ⑥・・・落ち着いた環境、衛生面の配慮
- ⑦・・・介助者や付き添い、話し相手
- ⑧・・・周囲の人の見守りや声かけ
- ⑨・・・避難所の運営に女性が参画すること
- ⑪・・・母親等が安心して養育できる環境への配慮
一時的に小さい子どもを預けることができる場所の確保